

＜研究事例の紹介＞

1 コウヨウザン苗の野兎による被害状況の調査

1 目的

広島県では平成28年度からコウヨウザンが造林事業の樹種に採択され、植栽が始まっています。コウヨウザンの造林現場では、植栽苗が野兎（ノウサギ）による食害を受けやすいということが明らかになってきました。効果的な野兎害防除方法を開発するため、野兎害の発生現場で被害状況の調査を行いました。

2 結果

【被害状況】 コウヨウザンの野兎被害は植栽直後（春期）、下刈り後（夏期）、他の植生の乏しくなる冬場に発生しやすい傾向にあります。コウヨウザン苗の野兎被害箇所は、鹿被害の痕と比較して綺麗な切断面となります（写真1、2）。

センサーカメラで、日没後から日出前の中で野兎が行動する様子が確認できました（写真3）。日中に野兎を発見することは難しそうですが、糞塊で存在を確認できます（写真4）。

【忌避剤】 植栽直後の食害は忌避剤として知られているコニファー（保土谷アグロテック）を苗に散布することで一定の防除効果が期待できますが、苗木の成長に伴い、忌避剤の付着していない伸長部分に食害が発生します（写真5）。忌避剤を散布した苗では下刈り後に被害が目立ちましたが、これは周りの草が刈られてしまうことで伸長部分が露出してしまうことが原因であると推測されます。

【保護資材】 苗木を被覆する保護資材では、被害がほとんど見られないので、有効な方法ではないかと考えられます。資材の費用や設置の手間などが課題となります。

3 活用の方向

現在、植栽木の安価な保護資材による防除方法や大苗と忌避剤の併用などの試験も進めています。安定したコウヨウザン造林を実現するため、低コストで確実な野兎害防除方法を開発・提案していく予定です。



写真1 野兎被害箇所
刃物で切ったような切断面



写真2 鹿被害箇所
切断面は綺麗ではない

本研究は、農林水産省委託プロジェクト「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発」の支援を受けて行われました。



写真3 夜間に撮影された野兔



写真4 野兔の糞塊と被害苗



伸長した芽は
食害を受ける

忌避剤付着部は
食害を受けない

写真5 忌避剤散布後に伸長した芽が被害を受けた苗